



BLUE SKY

～自ら学び 心豊かな子どもに～

第7号

令和7年10月2日(木)
コタキナバル日本人会附属
コタキナバル日本人学校
TEL 088-422297



文責：校長 渡會 寛之

実り多かった宿泊体験学習



9月25日(木)26日(金)はキウルでの宿泊体験学習でした。当日は絶好の天気となり(むしろ暑すぎたくらい)児童生徒たち皆汗だくになって自然の中を駆け巡りました。今回の宿泊体験では、児童生徒が自ら計画したアクティビティがたくさんあり、まさに自分たちで作上げた宿泊学習になったと思います。その中でも特に秀逸だったのがカレー作り対決でした。自分たちで考えたレシピで作られたキーマカレーと夏野菜カレーは、どちらも超絶美味でびっくりでした。私の36

年目になる教員生活の中でも、子どもたちが作ったカレーでこれほどおいしいカレーを食べたことはありません(本当)。また、付け合わせも含めた栄養のバランス、色どり、どれも完璧で、文句なしに全員の先生方から☆3つの評価でした。

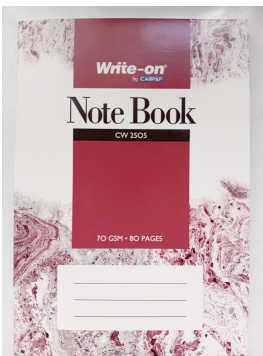
食後に行われたキャンプファイヤーの内容や進行等もすべて自分たちで決めて実行し、みんなが楽しめるものにしてくれました。子どもたちの楽しそうな声がキャンプサイト中に響きわたり、きっと森の中にいた動物たちも何事かとびっくりしたのではないのでしょうか？

さらに、この二日間のメインイベントでもあったラフティングでは、声を合わせてパドルを操り、仲間との一体感も感じる事ができました。偶然居合わせた他国の旅行ご家族とも、水を掛け合ったり英語でお話したりと温かな交流ができ、想定以上の実りある活動となったようです。

今回我々のお世話を一手に引き受けてくださった、本校の卒業生でもある上野我唯さんも「自分たちの時もこんなにやりたいことやれたらもっと楽しかったらうなー。」と羨ましがに話していました。我唯さんには計画の段階から何度も学校に足を運んでいただきましたし、アクティビティの際も子どもたちと一緒に汗だくになって活動していただきました。改めてお礼申し上げます。

さて、今回の宿泊体験学習ではテントを自分たちで張ることはもちろんほとんどのことを子どもたち自身で行うことができました。まさに「やっちゃえKJS」だったと思います。この体験で培った力はきっとこの後の学習発表会でも生かされるでしょうし、さらには子どもたちが社会に飛び立ってから生かされるはずです。これからもKJS職員は、目はかけても手はかけすぎず、子供たちの成長を見守っていきますので、保護者の皆様におかれましてはさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

言葉貯金ノート 活用開始



子どもたちの語彙を豊富にして読解力を向上させるために、言葉貯金ノートを配付しました。A6版の小さなノートですが、子どもたちには常に携帯して、新しく出会った言葉や、感動した言葉などをメモするように指導しています。習慣化するまではなかなか大変かもしれませんが、一度身につけば、大人になってからもずっと役に立つことだと思っています。

普通の貯金は使えば使うほど減っていきませんが、この言葉貯金ノートに蓄えられた言葉は、使えば使うほどなくならず、逆に身につくという素晴らしいものです。お家の方々も、どんな言葉がどれくらい貯まっているのか、時々子どもたちのノートを覗いては、そこに書かれている言葉について話してみてもいいのでしょうか。

裏面に「教科書が読めない子供たち」「AIに負けない子供を育てる」等々有名な数学者新井紀子さんの提唱する「シン読解力」について載せておりますので、是非お読みになってみてください。

*シン読解力＝情報が氾濫する現代に対応するための読み解く力のアップデート版

以下ネットインタビュー記事より

ー家庭で「シン読解力」を伸ばすトレーニングはありますか？

新井先生：「シン読解力」を伸ばす土台として、語彙（生活の中で使う言語など）が小学校3年で8000～1万くらいあることが前提です。小学校入学時に1万あれば理想ですね。そして語彙を獲得した上で言い回しを覚えていく、それには、日常生活の中でいろいろな言葉を聴く、読む、書く、話すことが大事です。

本の読み聞かせは、語彙を増やしたり言い回しを増やしたりする上で効果的です。逆に語彙や言い回しが増えないと、特定のことにしか関心がない子になります。「うちの子、本は読むんですよ」と言っても、いつも同じタイプのライトノベルばかり読んでいる子は語彙が増えず、語彙が増えなければ思考も広がらないのです。

保護者の方がお子さんと顔を合わせたら、「今日、学校で何やったの？」って聴いてください。特に男の子だと「社会」「大仏」など、単語しか返事が返ってこないことも多いですが、ニコニコしながら「へえ、大仏ってどこの大仏？ 知らないから教えて、教科書読んでくれたらうれしい」とさりげなく促しましょう。そして教科書を出して読んでもらったら、「そうなんだ！ その大仏っていつ頃建立されたのかな」など、どんどん会話を広げていくと、語彙も増えていきます。

理科は理科でまた語彙が違いますから、教科ごとに聴いていくといいですよ。「算数はそれ、難しかったよね」「分数のわり算では、ひっくり返してかけるんだよね」など、子どもが自然な形で説明できるように大人は促してあげたいです。

保護者の方で、子どもと一緒にいてもスマホばかり眺めている人がいますが、それはやめたほうがいい。保護者がスマホを見ていると、子どもは話しかけなくなり、語彙や言い回しは当然ながら増えていきません。できるだけ大人と話して語彙のバリエーションを増やしていくことが大事なのです。

ーとはいえ、子どもの語彙を増やすための会話を常に心がけるのは大変です。

新井先生：大河ドラマを一緒に観るのはいいですよ。歴史ものは語彙のバリエーションが増えます。

ーSNS動画ではダメなんですか？

新井先生：子どもが知っている単語ばかりしか出てこないのでは、語彙を増やす、言い回しを増やすという目的にはかきません。それに、SNSはユーザーの興味や行動を分析し、似たようなコンテンツを繰り返し表示する仕組みです。新しい語彙は獲得しにくいのです。